



牛の吸血昆虫の対策をしましょう！！





春から秋にかけては吸血昆虫が気になる時期です。今後、涼しくなると、虫の数が多くなります。吸血昆虫は、吸血により牛にストレスを与え、生産性を低下させるほか、伝染病の病原体を運ぶ危険性もあります。今後も引き続き、対策を行っていきましょう。

愛知県西部家畜保健衛生所

電話 0569-72-0344

FAX 0569-72-2770

★吸血昆虫の種類

種類	発生場所	吸血	媒介する病気
サシバエ 	家畜の糞便・堆肥などに産卵	<ul style="list-style-type: none"> ・雄も雌も吸血する ・日中より朝夕に吸血が盛んとなる ・吸血後は、樹木、草、建物の陰に潜む ・痛痒い感じがある 	牛白血病など
アブ 	草や苔、木の葉に産卵 幼虫の多くは土中、一部は水中や草地で生活	<ul style="list-style-type: none"> ・雌のみ吸血する ・鋭い口吻で皮膚を切り裂き、出血した血液を吸いとる ・真夏の昼間に吸血が盛んとなる ・吸血後は、草木の幹、葉、家屋の軒下などで休息する ・吸血時の疼痛や、大きな翅音によるストレスが大きい 	牛白血病など
ヌカカ 	水田の泥、有機物の少ない畜舎排水溜の沈泥などに産卵	<ul style="list-style-type: none"> ・雌のみ吸血する ・夜間に吸血が盛んとなる ・日中は樹林、やぶに潜む ・痛痒さにより、強いストレスを与える 	アカバネ病 アイノウイルス イバラキ病 チュウザン病 ブルータングなど
カ 	広くてきれいな水域、狭くて小さな水域（例：水溜まり）、有機物の多い汚い水域（例：畜舎の下水溝）など、種によって発育に適する水域が異なる	<ul style="list-style-type: none"> ・雌のみ吸血する ・昼間活動型（ヤブカ類）と夜間活動型（イエカ類、ハマダラカ類）がある ・強い痒みがある 	アカバネ病 日本脳炎 西ナイル熱など

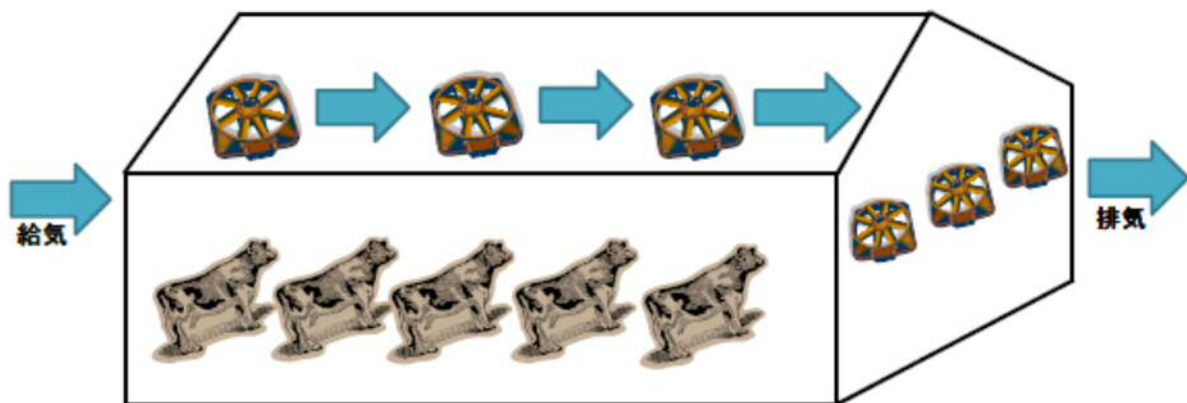
サシバエ、アブの画像：今井壯一・藤崎幸藏・板垣匡・森田達志(2009)

『図説 獣医衛生動物学』講談社より

カの画像：国立感染症研究所より

★対策

1. 虫の発生場所、休息場所をなくす
 - ・ 小まめに除糞を行い、牛舎内を清潔に保つ
 - ・ 水たまりなどの湿った場所をなくし、牛舎の床面を乾燥させる
 - ・ 飼料に蓋やシートをかぶせ、残餌もこまめに除去する
 - ・ 牛舎周囲の草を刈り、水溜まりをなくす
2. 物理的に牛舎内への侵入を防止する
 - ・ 物理的なトラップ（ハエ取り紙・アブトラップなどの捕虫器、電撃殺虫器）を設置する
 - ・ 防虫ネットを設置する
3. 牛に寄せつけない
 - ・ 牛体を清潔に保つ
 - ・ 牛の健康状態を良好に保ち、虫を追い払う力を維持させる
 - ・ 送風機などで換気方法を工夫する



対策となる換気方法の例（一方向の空気の流れを作ることで、虫が牛舎内に留まりにくくなる）

4. 薬剤を使用する
 - ・ 薬剤の種類（主要なもののみ）
 - ピレスロイド剤…環境中で比較的速やかに分解されるので、効果は持続しにくい
 - 有機リン剤…効果は持続しやすいが、毒性が強い
 - カーバメイト剤…即効性あり
 - 幼虫成長抑制剤…幼虫が羽化して成虫になるのを防ぐ
幼虫の発生が多い場所に使用すると効果的
 - ・ 使用方法
 - プアオン（牛体の背に沿って滴下）、イヤータグ（耳標）、噴霧、散布、塗布
 - ※使用の際は用法用量、休薬期間、使用上の注意を守る
 - ※薬剤に対する虫の耐性ができるのを防ぐため、数種類の薬剤を交互に使用すると良い